

クラスワイド(学級単位)のポジティブ行動支援 実践研究報告

**小学校中学年の児童に3問テストを
実施し、「聞く力」を教える**

教員の考え

「自分の力を発揮して学力をつけてほしい」



アドバイザーからの助言

- 担任の先生のほめ方やフィードバックが大変よいです。
- 指示が聞けた上のレベルでの「聞く力」を目指します。
- 「聞けたこと」を見える化する記録の工夫をすることから始めましょう。



指導目標の見直し

【長期目標】

「聞く力を育て、学力の向上を目指す」

【指導目標】

「授業で学んだ内容について、3問テストで安定した得点をとることができる」

指導1:「3問テスト」の実施

【聞き取りワークシート】

- ・言葉を聞いてイラストの入った選択肢を選ぶ
- ・1日1枚ずつ実施

【集中トレーニング】

- ①身体を止めて「聞く」姿勢を作る
- ②着席姿勢で確実な「聞き取り」をする
- ③いつでもどんな指示でも対応できるようにする

「わになって」 聞き名人 になろう		
★ それぞれのステップに合かくしたらシールをはっていきましょう。 ★ それぞれのステップで、全員が合かくしたら、次のステップに進んでいきましょう。		
ステップ	めあて	合かく
ステップ 1 ゆかにねる	★1分間、手も足も体全体の動きを止めて、しずかにゆかにねることができる。	
ステップ 2 ゆかにねる せきに着く	★しずかに起き、しずかに自分のせきにすることができる。	
ステップ 3 ゆかにねる せきに着く らくがき	★3つのやくそくを守って、20秒から30秒、目が真っ黒になるまでらくがきをすることができる。	
ステップ 4 ゆかにねる せきに着く らくがき	★1分間、手も足も体全体の動きを止めて、しずかにゆかにねることができる。 ★しずかに起き、しずかに自分のせきにすることができる。 ★3つのやくそくを守って、20秒から30秒、目が真っ黒になるまでらくがきをすることができる。	

トレーニングで使用した
聞き名人カード

記録方法と記録

- 授業内容を, 3つの問題「3問テスト」として実施
- 授業のめあてに対応するポイントを3つに絞り作成
- 3問テストや通常のテストから, 学級内の生徒を3グループに分けて, 平均値の変化を見る
 - ①個別対応が必要なグループ(ハイニーズ)
 - ②配慮が必要なグループ(ローニーズ)
 - ③通常対応のグループ

【実態把握期間】

答え方の違う3種類のパターンを3日ずつ取る

- ①単語で解答
- ②短文で解答
- ③長文で解答

3問テストの例

○6月17日(算数)

- ・数の直線をなんと言いますか？
- ・右へ行くほどどうなっていますか？
- ・大きいメモリを読んだ後、何のメモリを読みますか？

○9月28日(算数)

- ・3つの辺で囲まれた形をなんと言いますか？
- ・2つの辺の長さが等しい形をなんと言いますか？
- ・3つの辺の長さが等しい形をなんと言いますか？

○10月14日(理科)

- ・かげが動くのは何が動くからですか？
- ・太陽はどちらからどちらへ動きますか？
- ・かげはどちらからどちらへ動きますか？

指導目標の達成基準

【ステップ1】

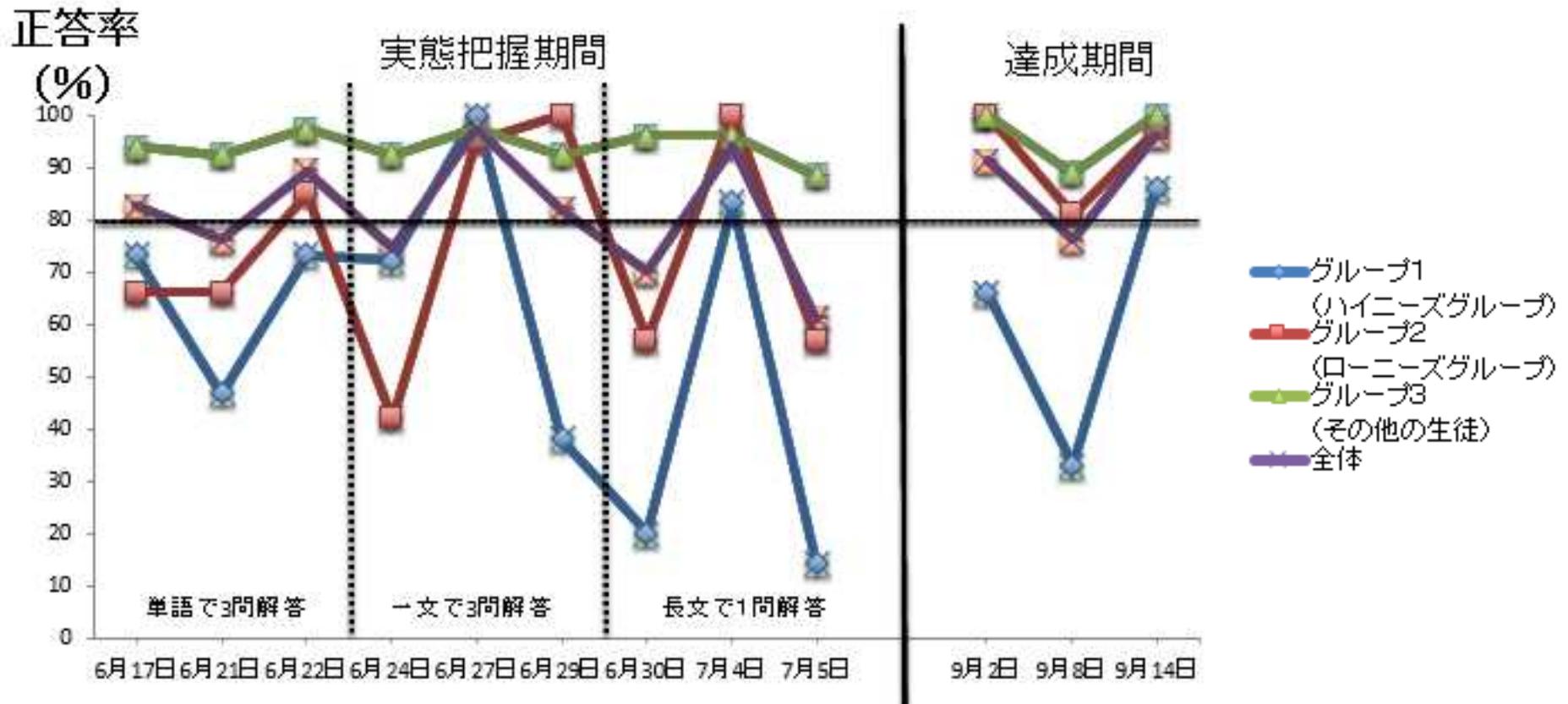
授業中に注意を促して伝え、直前に復習した内容の問題が、8割以上の正答率である

【ステップ2】

直前に復習せずに取り組み、8割以上の正答率である

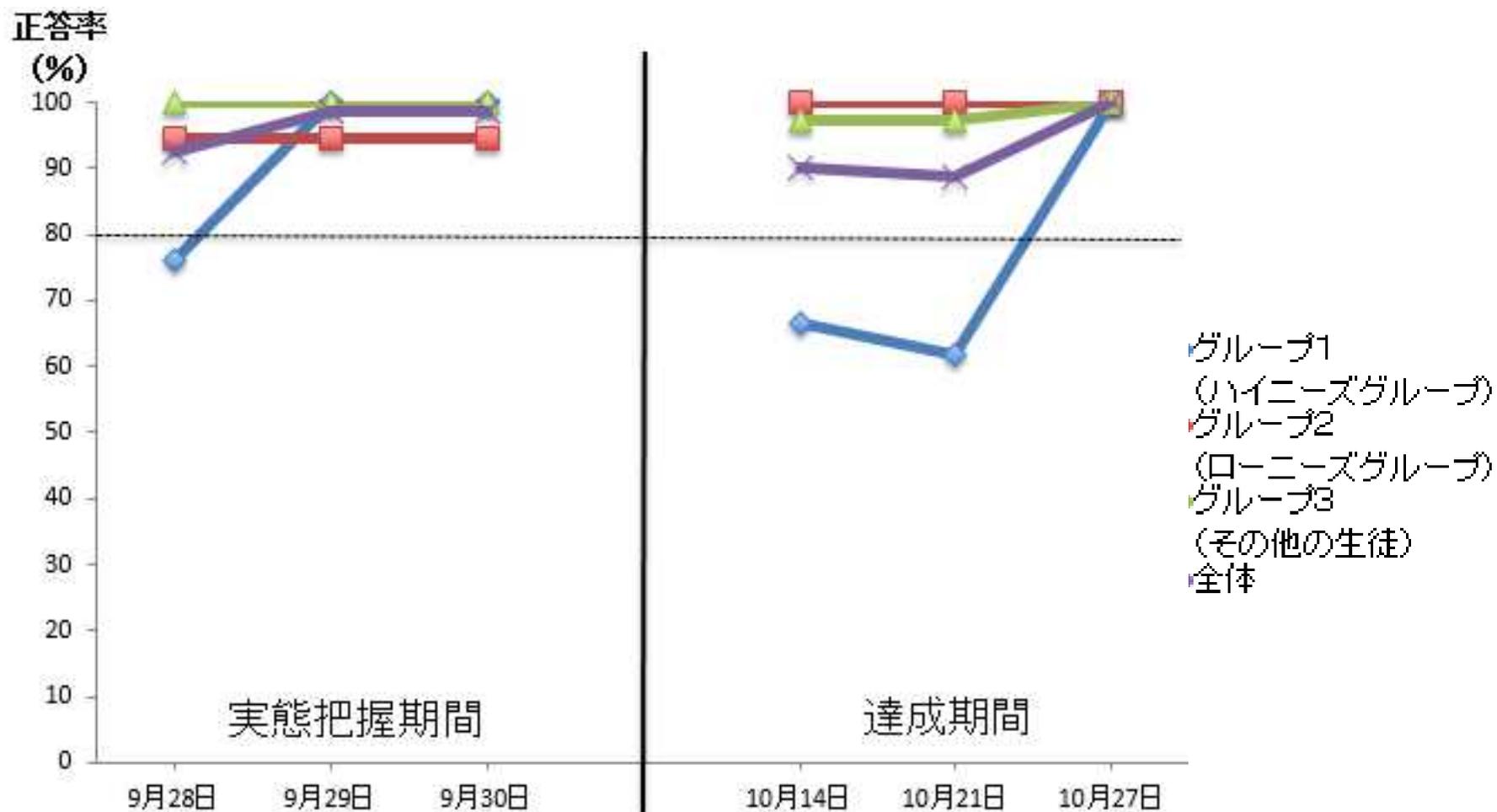
* 個別対応が必要なグループを除く

指導1の成果(ステップ1)



- ・80%以上の正答率が3週続いたので達成としました。
- ・取り組み以後、グループ2の得点が安定し、夏休み後も安定した得点が維持されています。
- ・問題が難しかった日でもグループ2・3は安定して目標を達成しています。

指導1の成果(ステップ2)



- ・達成期間は安定して80%以上の正答率でした。
- ・問題が難しかった14・21日についても達成しています。

児童自己評定尺度

- 「児童自己評定尺度」を活用して，自己肯定感の変化を調べました。
- 取り組み前後に記録をとり，変化をみましました。

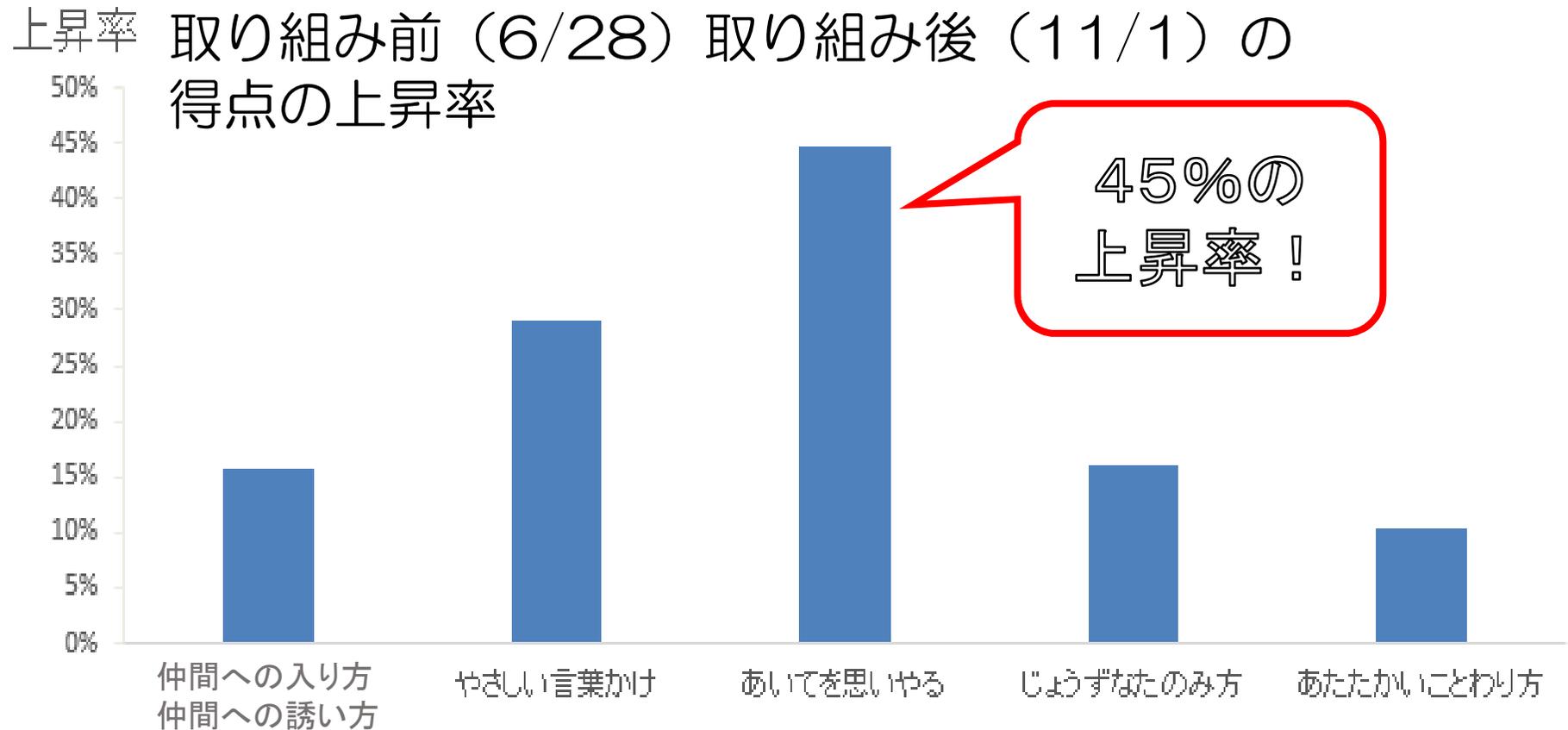
「児童自己評定尺度」について

『学校でできる認知行動療法 子どもの抑うつ予防プログラム【小学校編】』

佐藤正二，佐藤容子，石川信一著 日本評論社の中から活用

子どもが読み取れるようにふりがなをふったものを準備して実施（5項目で構成された質問に児童が答える形）

児童自己評定尺度の変化



全ての項目において得点の上昇が見られました。
特に「相手を思いやる」項目は著しい上昇でした。

ここが成功のポイント



○教師が授業の大切なポイントやつけたい力を意識して授業を展開することができた。

○児童一人一人の理解状況を把握し、授業の評価として活用できた。

○学習のまとめとして活用でき、児童自身のフィードバックにもなった。